

# 御池沼沢ニュースレター

令和7年7月28日 Vol.137

7月14日(月)、15日(火)は大池中学校1年生171名が隣接する西部指定地にて自然観察を実施しました。国指定天然記念物において湿地の重要性を学ぶ理科の自然観察の授業として、初めて行いました。これまで西部指定地に入って自然観察をしたことのある子どもは少なく、ヤチヤナギやモウセンゴケ、ノカンゾウやミミカキグサなど植物に着目しながら興味深く観察を進めました。



まず寒地性植物であるヤチヤナギの観察をしました。東北地方以北の湿地では普通にみられる落葉小低木ですが、御池沼沢植物群落は日本の南限にあたることを伝えると、ここが南限であることを驚く様子が見られました。振り返るとトゲのあるヘビノボラズがあります。「百聞は一見に如かず」と言われる通り、目の前の湿生植物をじっくりと観察する様子が見られました。

次にモウセンゴケやトウカイコモウセンゴケ、ノカンゾウの見学です。ノカンゾウは朝咲いて夜にはしぼむ「一日草」と言われる通り、14日と15日で花が開いている場所が違いました。子どもたちにユリ科橙赤色の華やかな花をどうしても見せたいと思っていたため、無事咲いてくれるかどうかドキドキしていましたが、水路沿いに鮮やかな姿を見せてくれました。

最後に、南側のミミカキグサを保護しているゾーンをたずね、ミミカキグサやムラサキミミカキグサ、ホザキノミミカキグサを観察しました。子どもたちは足場からルーペを向け貴重な食虫植物の観察をしました。6月に環境保全ボランティアの皆さんや自然観察・保全体験会にてヨシなど抑制種の除去に取り組んでいただいた場所です。足場の中にはミミカキグサの保全のため、ヨシが残ってしまった部分があるのですが、子どもたちはヨシの除草した部分と残っている部分を比べてどちらがミミカキグサの生育する数が多いか比べていました。子どもたちは、一目瞭然で、ヨシを除去したところに多く植生していることに気づき、さらにめずらしいムラサキミミカキグサなどを探す様子も見られました。

御池沼沢植物群落では、子どもたちなどの新たな観察者が少なく、御池沼沢植物群落の価値を伝えていくことが課題となっていました。大池中学校様のご協力もあり貴重な文化財の活用が大きく前進しました。ありがとうございました。

自然観察当日の様子は7月16日付中日新聞北勢版や大池中学校ホームページでも紹介されました。大池中学校ホームページ <http://www.yokkaichi.ed.jp/ohike/nc2/htdocs/>

「令和7年度活動予定」の中で、8月20日(水)に予定していた活動は、7月30日(水)の天然記念物学習会に変更となりました。8月20日(水)の活動はありません。

7月30日(水)には、本市文化財保護審議会委員である、富田啓介さんを迎え、天然記念物 学習会「御池沼沢5つの謎を解き明かす」～その自然の姿と守りかた～を行います。御池沼沢の貴重な姿や保全の仕方について分かりやすく講演していただきます。次号での紹介が楽しみです。